

令和5年度 学校評価書(学校運営協議会用) (計画段階・実施段階)

福岡県立柏陵高等学校

自己評価						
学校運営計画(4月)				評価(総合)		
学校運営方針	国家・社会及び国際社会の有為な形成者として、自らの在り方生き方を自覚し、知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、志をもって意欲的に学び、たくましい生き方のできる人間を育成する。					
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標				
昨年度はコロナ禍からの脱却に向けて様子を見ながら徐々に平常の教育活動へと軌道修正を行った一年であった。今年度は学力検査と特色化選抜により本校で学ぶ意欲が強い生徒が多く入学している。これらの生徒を成長させるために本校の教育活動でも積極的なICT活用と観点別評価の充実を推進して、生徒の意欲をさらに引き出す教育活動を行い、主体的に思考・判断して活動する生徒の育成に努めたい。	確かな学力の育成	・ICTの積極的な活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を全教科で取り組み、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 ・観点別評価の評価規準やルーブリックの改善を組織的に取り組み、生徒の学ぶ意欲を引き出し、指導と評価の一体化を進める。				
	自立に向けたキャリア教育の推進	・進路希望の実現に向けて、関係職員で多様な受験方法について研究し、情報共有しながら教科・科目の指導に取り入れて組織的に生徒の進路希望実現を図る。 ・生徒が「学ぶこと」「生きること」「働くこと」の価値や課題を見出し、自ら考えて主体的な進路選択ができるように、計画的・組織的なキャリア教育を様々な機関と連携して進める。 ・3年間を系統立てた総合的な探究の時間を計画し、生徒が「論理的思考力」「論理的表現力」を高め、自ら考える機会とする。 ・キャリアアップの一つとして英語検定試験の受験を組織的に促す。				
	自己指導能力の育成にむけた組織的な生徒指導の推進	・教育活動のあらゆる場面で、自己決定の場を設ける。 ・挨拶や時間厳守の励行、自転車等の交通ルールの遵守など社会の形成者にふさわしい資質能力の習得を進める。 ・SNSによるトラブルやいじめ問題に対する未然防止と早期発見・早期対応に努める。 ・自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え行動できる相互扶助で共感的な人間関係づくりを促す。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		
教務課	生徒の学力の保障と学習習慣の確立	授業導入期に指導計画等をもとに予習復習の仕方や問題集等の使い方を徹底的に指導する。	B	B	・予習復習を含む家庭学習を十分に確保するためにどのような工夫や声掛けをするべきか全職員で議論する必要がある。 ・スコーラ手帳に時間割や学習時間の記入だけでなく、提出物の日時や小テストの日程などを記入させていきたい。 ・chromebookについても多くの先生方が様々な方法で生徒に活用させている。教科内でどのような利用法があるか協議していきたい。 ・観点別評価による成績処理が2年目になり、今年度初めて処理をされた先生方も多くいたが、昨年度経験された先生方がレクチャーしてくれているので大きなトラブルなく処理が進んだ。	
		予習復習を計画的に実行させるとともに、課題等を厳選し提出を徹底させる。	B			
		スコーラ手帳を用い、生徒の自己管理能力の向上とPDCAサイクル実現を図る。	B			
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	アクティブラーニング等の生徒の活動の実施を向上させる。	A			A
		ICTを活用した授業の研究と実践を推進し、授業での実施を向上させる。	A			
		教科会及び教科主任会を定期的に開催し、授業内容等を検討し授業改善を図る。	C			
新学習指導要領における本校カリキュラム・学習評価の実践	新学習指導要領における新学習評価を円滑に実践する。	A	B			
	拡大学年会等を開くことで学年・教科等と連携し、成績不振者及び欠席や遅刻が多い生徒を早期に把握し指導を充実させる。	A				

学校運営協議会評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校運営協議会からの意見

生徒指導課	学校組織としての生徒心得(校則)遵守 (自己教育力の育成)	挨拶の励行、適切な言葉遣い、話を聞く態度の指導	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会や登校指導、部活動を通じて、引き続き根気強く指導を行う。</li> <li>・全職員で授業開始時に身だしなみを確認し、その場での指導を行う。</li> <li>・重点課題であり、集会やHRを通じて全職員で取り組む。(遅刻指導や成績不振者保護者連絡会等に遅刻の多い生徒の保護者も同席してもらい家庭協力を依頼する)</li> </ul>			
		全職員による身だしなみを整える指導	B					
		時間厳守の指導(遅刻者の減少)	C					
	危機管理能力の育成 (SNS・交通安全・公共の場)	スマートフォン持込許可制とSNS柏陵ルールの遵守	B	B				<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSを通じての人間関係のトラブル予防のため集会時やHR時に定期的に確認する。</li> <li>・全職員の協力により登下校指導の実施</li> <li>・月1回の学校生活アンケートを活用してトラブルの未然防止に努める。</li> <li>・学校行事を積極的に取り組み、生徒会や各専門委員会ごとに企画・立案し委員会活動を活性化させる。</li> <li>・定期的な部活動集会の実施と部活動を通じてリーダーシップを育成する。</li> </ul>
		自転車通学指導の実施、交通ルール遵守の指導	B					
		良好な人間関係の構築	B					
	生徒主体(生徒会)の活動の充実と部活動の強化	様々な学校行事への生徒の興味・関心の喚起	A	B				
		生徒会の主体的な活動の育成(各専門委員会の活性化)	B					
		部活加入の促進(1年生仮入部)部活動の充実	B					
進路指導課	3年間を見通した進路指導計画	HR活動・総合的な探究の時間等における進路学習(進路行事)を企画・実施する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した進路指導を行えるように進路のしおりの内容や、総合的な探究の時間の実施計画を見直していく。</li> <li>・夏期講習、冬期講習は今年度、形を大きく変えて実施した。1番の課題であった欠席率が夏期講習は20%であったのに対して、冬期講習は11%と減少させることができた。今年度の反省を踏まえて、来年度以降のあり方を検討していく。</li> <li>・3年1学期に志望校検討会を実施し、複数の職員で進路指導を行える体制をつくる。</li> <li>・校外模試実施後の振り返りを行い、普段の学習への意識付けや将来を考えるきっかけを作る。</li> <li>・総合的な探究の時間や進路類型説明会などで外部講師を招き、講演会等を実施した。今後も学校内・教員だけでなくキャリア教育ができるよう取り組んでいく。</li> </ul>			
		大学入試制度(総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜等)の活用方法を検討・確立する。	B					
		公務員・就職希望者に対する指導体制を確立する。	C					
		『進路のしおり』の内容を精選し、進路指導により活用できるものにする。	B					
		夏期講習、冬期講習の実施方法を検討する。	A					
		入試分析会・志望校検討会を実施し、生徒に最適な受験方法を組織的に検討する。	B					
	多様な受験方法の研究、情報共有	校外模試・小論文模試・看護医療模試の実施と模試分析会等を充実させる。	B	B				
		外部検定試験受験を組織的に促し、指導を行う。	C					
		自ら考え、学び、行動できる生徒の育成	A			A		
計画的、組織的なキャリア教育ができるよう様々な機関と連携する。	A							
研修課	職員研修の充実	各分掌との連携・協力を密にし、指導に還元しやすい校内研修を企画・実施する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の時期と内容を年度当初に十分検討し、計画的に実施する必要がある。</li> <li>・教科別研修会の機会を設け、3年間を見通した教科指導の共通理解を図る必要がある。</li> <li>・校外研修会に参加する教員を増やす必要がある。</li> <li>・1人1台端末の活用に向けて、アイデアを共有するための自主研修会などがあると望ましい。</li> <li>・ICT授業研修会を今後も継続して行うことで、授業改善の士気を高める必要がある。</li> <li>・プロジェクト推進に向け、外部アドバイザーやその他の有識者からも指導・助言を受ける機会をつくる。</li> <li>・「人権読み物」は、題材を蓄積していくために、紙媒体からICTへの移行を推進する。</li> </ul>			
		各教科指導に役立つ研修の機会を設け、組織の活性化に繋げる。	B					
		キャリアアップ講座等の校外研修への積極的な参加を促す。	B					
	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善	1人1台端末を活用した授業実践に向けて、活用法についての校内研修会を行う。	B	B				
		ICTを活用した授業アンケートを実施し、生徒の主体的な学習に向けた授業改善へ繋げる。	C					
		「新たな学びプロジェクト」の研究指定校としての研究に向けて、大学アドバイザーと連携しながら推進させる。	A					
	人権・同和教育の充実	校内における教職員の研修に努め、人権・同和教育についての職員間での共通理解を図る。	B	B				
		人権・同和教育授業の事前検討を十分に行い、指導案を蓄積し、授業の充実を図る。	A					
		「人権読み物」を精選し、ICTを活用した実践に移行する。	C					



第二学年	自律と協働の精神と行動力の育成	挨拶、校則の遵守、時間の厳守、清掃などの凡事徹底を図り、基本的な生活習慣を確立させるとともに公共の精神を育成する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップとフォロワーシップの育成 学年や学校全体を牽引するリーダーの選出及び個別支援・指導を充実させる。また、リーダーの補佐や、全体に貢献する態度や見方・考え方について学ぶ機会を設定する。</li> <li>・ソーシャルスキルの育成 多様な価値観や考え方を享受し、他者とよりよい人間関係を構築できる資質・能力の向上のためにホームルーム活動等を充実させる。</li> </ul>		
		部活動や学校行事を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、主体的に社会に参画できるリーダーを育成する。	B					
		多様性を尊重し、個々の能力や特性に応じた環境づくりに留意しながら豊かな人権感覚を育成する。	B					
	主体的で規律ある学習習慣及び生活習慣の確立	授業規律を重んじ、学習環境を整備して授業を最大限に充実させる。	A	B				
		家庭学習時間調査やスコラ手帳を活用して主体的で計画的な学習習慣を確立させる。	B					
		課題提出の徹底、学期末ごとの英単語コンクールの実施を通して学年全体の学力及び学習意欲を向上させる。	C					
	具体的な進路目標の決定と探究活動の充実	進路指導課と連携して総合的な探究の時間を充実させ、主体的・対話的で深い学びを育成する。	B	A				
		入試制度や科目の調査、大学訪問等を通して志望校について考えさせ、早い段階で受験生として自覚させる。	A					
		面談や進路情報の提供、キャリア教育の充実を図り、自己の探究を通して納得のいく進路決定ができるよう支援する。	A					
第三学年	学校全体のリーダーとしてふさわしい集団を育成する	挨拶・清掃・時間の管理や規則の順守などできることを徹底してやらせる。	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解の確立 志望理由書や面接対策の中で自らの資質・能力や課題を発見させる。</li> <li>・キャリアビジョンの具体化 卒業後の志望先だけでなく、その先のキャリアビジョンについて考えさせる。</li> </ul>		
		学校行事で生徒がリーダーシップを発揮できるようサポートする	A					
		生徒が自ら気づき、考え、周囲に配慮しながら行動できるようアドバイスをする。	A					
	進路実現を可能にする学習環境を整える	授業規律を重んじ、学習環境を整備して授業のさらなる充実を目指す。	A	B				
		学習時間調査を継続し、家庭学習時間の確保を図る。	C					
		「課題を解決する力」「協働する力」を育成するための授業改善を行う。	B					
	生徒が納得できる進路選択をさせる	学習会や自習スペースを設定し、自学自習をするための環境づくりをする。	A	B				
		コース別集会を企画し、個人および集団のモチベーションを高める。	B					
		生徒が自らの意思で目標を設定し努力できるよう、面談を充実させる。	B					

自己評価及び学校運営協議会評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見

・  
・  
・  
・